

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292000082		
法人名	社会福祉法人 慶長会		
事業所名	グループホーム いずみ		
所在地	長崎県対馬市上対馬町泉1635		
自己評価作成日	令和3年10月12日	評価結果市町村受理日	令和4年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年 11月 25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

対馬の美しい自然と恵まれた環境に施設はあり、自宅で生活しているような雰囲気の中で、利用者は生き生きと過ごされている。利用者の尊厳を守り個々に寄り添った介護に努めている。家族の訪問、電話での対応等絶えることがない。目配り、気配り、心配りの基本理念をモットーに介護支援に全員一丸となって取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、経営母体法人を移行し名称を改め2年目を迎えている。創設からの理念を継承し、新旧職員ましまりのある新体制の中で、管理者は職員の意見や提案を聞く機会を設け、迅速に反映できるよう努めており、管理者の活気溢れる行動力と職員のチームワークの良さが見て取れる。また、「家庭的な生活」を念頭に、気軽に近くの港沿いを散歩したり、野菜の皮むきなど家事仕事を取り入れたりと、ゆとりある生活の中で「生きがい」をもてるよう尽力すると共に、職員のおだやかな声掛けなど明るさを絶やさない姿勢は事業所の特長と言える。また、介護支援計画においても、本人・家族の希望や意向を詳細に汲み取り文書化しており高く評価できる。自然豊かな環境の中で、利用者が生き生きと過ごせるための支援に向けて、新たなアクションを積みながら、法人の理念「目配り・気配り・心配り」の実践に努める事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な生活環境で入居者の権利と尊厳、地域や家庭との連携を図り生きがいある生活支援に努めている。また、ミーティングなどにおいて理念の確認などの取り組みを行っている	理念を玄関に掲示し職員の意識を高めている。理念「目配り、気配り、心配り」に沿いながら、本人の意向を尊重し、家庭的な生活環境の中で、気軽に散歩に出掛けるなどゆとりを持ちながら思い思いに過ごせるよう支援している。職員の穏やかな声掛けもあり、理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設訪問は、地域、友人、ご家族、親類等絶え間なく受けているが、利用者の高齢化が進み積極的な外出が年々厳しくなっている。地区行事の見学などから地区に解けこみ交流を図っていききたい。	新型コロナ禍による自粛と利用者の高齢化、重度化に伴い、地域行事の参加等が厳しくなっている。収束後は可能な範囲での外出や事業所内のボランティアの受入れ等、地域交流を予定している。また、経営母体法人が移行し名称も改め2年目であり、地域との繋がりはこれからである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者への理解が得られるよう、地域との関りを積極的に取り組んでいる。地域の方から信頼される施設であるよう日々実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、老人クラブ、関係機関などからの指摘や助言等受け、又、話し合いながら介護に活かせるよう積極的に取り組んでいる。	今年度は新型コロナ禍のため書面会議で対応している。運営推進委員へ利用者状況、事故・ヒヤリハット報告他資料を配付している。ただし、出席者の項目が空欄で構成メンバーが不明である。また、資料送付の際感想や意見を聴取していないため、議事録に意見交換内容の記載がない。	書面会議においても、運営推進会議の意義に立ち返り、運営推進委員の構成メンバーを記載することが望まれる。また、メンバーとの活発な意見交換が行われていることが分かる議事録につながることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉事務所、地域包括支援センター等、担当課との積極的な連携を図っている。	行政からは最新の情報を得ている他、電話や直接窓口に出向き、運営における手続きや不明な点を問い合わせるなど協力関係を築いている。また、日常的に行政無線受信機にて情報入手に努め、新型コロナ感染症の感染拡大や災害を未然に防ぐための取組を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者等の尊厳と主体性を尊重し、職員1人一人が身体的、精神的弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回開き、全職員で参考資料を項目ごとに読み上げるなど理解を深め、その際使用した資料を運営推進会議議事録に添付し報告している。指針を整備し、言葉による拘束など職員同士でも注意し合いながら拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設の方針として、虐待はしない、させないをモットーに日々の介護に取り組んでいる。毎日のミーティング会議等において介護員と認識を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している利用者が現在いる。また、制度の理解と必要性を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容、利用料金等家族が納得し、理解を得られるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の気持ち、意見、不満等を聞き、態度・行動から思いを察するよう努めている。また家族が面会の際には、日常の様子を報告するなどしている。問題があれば早急に解決するように心がけている。	利用開始時に、サービスについての意見・要望・苦情窓口や体制について説明している。利用者の様子は、電話や面会時に伝えながら意向を把握している。利用者や家族の意見を真摯に受け止め、サービス向上に努めている。日常の様子を書面で伝えて欲しいといった家族の要望があり、現在準備中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ミーティング等において職員の意見、要望を幅広く聞くと共に運営に反映させるよう取り組んでいる。	管理者は、朝ミーティングだけでなく日常的に職員の意見や提案を聞いている。また、個人面談を行い、働き方の意向も確認しており、管理者会議では、現場の意見を法人に報告している。管理者は、職員が余裕をもって働けるよう、職場環境整備に努めており、物品購入やシフト等、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厚労省、県、市等制度等の改正が行なわれた時等は職員に周知を図り説明し、改善、取り組みを積極的に図っている。給与等の改善、働き方改革による年休、働きがいのある職場、環境の改善に積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議、研修には全職員が出席・受講出来るように配慮している。研修、会議内容については復命し、ミーティング等において報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携を図り、直面した問題や運営上の取り組み、職員間との交流等積極的に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を受けたら本人が納得出来るよう、心身の状態や本人の思いに向き合い、安心出来る信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安に思っていることに対して話を十分聞き、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や家族の思い、状況を見極め、改善に向けた支援への取り組みでサービスの提供につなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性、性格に合った対応に心がけ、職員と一緒に過ごすことで信頼関係が築けるように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と入居者の思いを共有しながら本人と一緒に支えるために、家族と同じ思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の懐かしい場所などドライブに定期的に連れて行き、四季折々の自然観察を楽しんでいる。	利用者の生活歴や馴染みの情報は、フェイスシートにまとめ、職員は情報共有している。以前は、家族や知人の訪問や外出は自由であったが、現在新型コロナ禍にあり自粛中である。家族からの電話、玄関先での面会など、制限がある中でも最大限の関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの1日が楽しく過ごせるよう、気の合う方、趣味の合う方を席替えし楽しい雰囲気の中で過ごせるよう配慮している。孤立者がいないよう思いやり、支えあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院において退所された方等については、お見舞い面会に行き病状等体調の様子を伺う。他施設に移られた方には、家族等に近況を伺い、微力でも支援できるよう信頼関係の構築に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生き立ち、性格、個性を把握し、意向や希望に寄り添う介護支援に努めている。	職員は、利用者一人ひとりのエピソードを聞いたり、コミュニケーション方法を工夫しながら、思いや意向の把握に努めている。利用者は、日記を書いたり、新聞を読むなど穏やかに過ごしたり、好きな家事仕事を職員と一緒にするなど、個別に検討し暮らしぶりに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴やこれまでのサービス利用の経過等尋ね、本人にあった介護支援を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の血圧、脈拍、体温等、毎日定期的に測定し、心身状態の把握に努め、健康状況に配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の要望や思いを聞き、スタッフが丸となってニーズを把握し、課題を明らかにしてアセスメントを行っている。	長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成している。本人・家族の希望を面会時や電話で聞き取り、同意を得、計画の見直し毎に詳細に文書化しており高く評価できる。毎朝のミーティングや実践の中で職員間の意見を集約し6ヶ月ごとにモニタリングを行っている。職員は日々の記録を的確に行い、介護計画に即した支援のあり方を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、業務日誌、ミーティング記録等、食事や排泄等心身面及び日々の生活の様子や出来事等、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族のあらゆるニーズに対応できるよう柔軟な姿勢で取り組んでいる。一人ひとりに合わせたニーズに対応し、サービスが多機能となるよう介護支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者がより良い暮らしを続けていく為に支援を図っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行の受診を取っているが、定期受診については施設で対応している。又、問題等があれば家族と連絡を取り対応している。地元医療と連携体制を密にしている。	離島における医療連携体制の中で、かかりつけ医を継続し、管理者とケアマネージャーが主となり通院同行している。遠方への通院は家族が同行し、受診結果の報告後記録により職員間で情報共有に努めている。職員ルームに掲示しているお薬表は、利用者が服用する薬剤がどの病気に作用するか一目で分かる工夫が確認できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで個々の体調の状況等を記録し、病院受診の折説明相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時には、本人の支援している情報を医療機関に提供し、又、職員が病院を定期的に見舞っている。洗濯物も施設で対応している。家族、病院とも連携を図り、情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族と話し合いをもち、施設として対応できる最大のケアに努めていきたい。	事業所としては看取りを行わない方針であり、重度化した場合や終末期のあり方について、利用開始時に家族に説明している。終末期には、法人内老健施設や医療機関への入院などが必要となる旨も話している。ただし、指針を整備しておらず、口頭での確認事項も記録していない。また、緊急時の延命処置の意向確認等もこれからである。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を明確にすると共に、緊急時の延命処置の意向確認など、事業所が対応しえるケアについて情報共有する仕組みづくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアル、職員間・家族間との緊急連絡網を作成し、事故発生時に対応できる体制を取っている。又、消防署による定期的な訓練、指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害等発生した時は近隣の地区公民館に避難出来るよう設定している。台風時には夜勤職員を増し、24時間体制で警戒に当たっている。	年1回、総合避難訓練を消防署立会い・夜間想定で行い、評価を受け注意すべき点を再認識している。今年度、大型台風接近により法人本部の老健施設に利用者全員の避難を行った実例がある。ただし、立地条件を基にした事業所独自の自然災害マニュアルの作成や備蓄の整備はこれからである。	自然災害対策においては、今後も法人本部との協力体制を築いていくと同時に、事業所に想定される自然災害のマニュアル作成、並びに備蓄の整備が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある生活、プライバシーへの配慮、礼節あるスタッフの介護に取り組んでいる。	職員は、利用者の人格を尊重した支援に取り組んでいる。利用者には、言葉遣いや声の大きさなど注意し穏やかに対応している。トイレ誘導など羞恥心に配慮した声掛けを行っている。個人情報に関わる書類は、事務所で管理し、職員には守秘義務を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、本人の思いや希望、表情等で体調を汲み取り、納得出来る介護支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり1人の思いや楽しみを最優先し、心身の状況に合わせて生きがいのある日々が送れるよう支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣服の整理整頓、着替えの支援、本人が望む理美容の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台ふき、下膳、材料の下準備等積極的に取り組んでいる。食事の前に口の体操を取り入れ、喉の通りを良くして食事を取っている。	法人管理栄養士が、旬の食材や利用者の嗜好に合わせた献立を作成し、職員が調理している。利用者の嚥下に合わせた盛付により、利用者は自分のペースで味わって食事している。配膳や台ふきなど、手伝う利用者もいる。ただし、法人の方針により、利用者と調理や旬を楽しむ取組に制限がある。	背景には衛生管理の制度があると思われるが、“家庭的”がグループホームにおいての定義でもある。利用者と職員が調理を楽しむ、職員が旬の食材を適時提供するなど、活動機会が増えることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮して献立を立てている。四季折々の食材を摂取するよう心がけている。水分摂取にも充分配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄等声かけをし支援している。歯、口腔内に異常があれば歯科医院で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけないよう配慮し、その時の状況に応じて、下着、おむつ、パットを使い分けている。	事業所は、トイレでの座位による排泄を支援しており、排泄状況や支援内容を記録し、個別支援に反映している。利用者が快適に過ごせるよう、パッドの大きさやショーツの種類、使用時間を細かに検討している。利用者の自立を支援し、本人の自信に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取、飲物等の工夫、運動等取り入れて極力、下剤等使用しないで対応できるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏時間、冬時間、夏は週3回、冬は週2回と原則決めているが、排便等失敗などが生じたときはその都度対応している。高齢化が進み入浴も2名体制で対応している殆どが全介助である。バイタルチェックを行い体調のすぐれない方は、清拭等で対処している。	基本的に、夏は週3回、冬は週2回を入浴日としており、利用者の体力やその日の心情に配慮しながら、介助体制を組み支援している。浴槽に浸かったり、好みのシャンプー類を使うなど利用者の意向を汲みながら、寛いだ気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調、気分を汲み取り、安心して眠れるよう言葉かけに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方内容を職員が把握管理し朝、昼、就寝前の薬を分包し、主治医の指示どりの服薬を支援している。1日のバイタルチェックを行い症状の変化の確認と健康管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が朝から夕方までホールで、それぞれ気ままにテレビ、カラオケ、食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ、紙折り等楽しみながら1日を過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の意向、体調に応じて季節を肌で感じてもらえるよう散歩、ドライブ等出かけている。	利用者の体調や天候に応じ、事業所周辺を散歩している。事業所隣りの物干し場に出て、職員と共に洗濯物を干す機会もある。訪問調査時は、家族との外出は制限中であったが、事業所では新型コロナウイルスの市中感染の状況を見ながら、季節を楽しむドライブを計画し、実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者家族から預り金として毎月必要な金額を預かり現金出納簿、領収書等を整備し、月末に出納簿の写しを添付し家族に報告している。利用者には欲しいもの、買いたいもの等伺い購入している。外出できる人には一緒に買い物に連れて行き自由に使えるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的な訪問、電話での対応等家族や友人から絶え間なくある。島外に居住してある方、電話等あまりない方には、施設側から積極的に連絡し、電話での交流を提案している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内を木造建築で個室を日本間風と洋間風に分け、内装も落ち着いた色合いに仕上げている。床は各部屋共バリアフリーにし、居心地の良い生活空間に仕上げている。	海に面した港沿いに立地し、海鳥や魚が見れる自然豊かな環境にある。キッチンからは食事作りの音や匂いを感じることができ家庭的な雰囲気である。リビングでは利用者がテーブルやソファに集い、新聞購読や家事仕事など楽しみと役割を持って過ごしている。木製の温かみある造りであり、広い廊下は掃除やワックス掛けが行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では食卓を囲んでの会話、ソファでの雑談、テレビ・カラオケ等、気楽にくつろぎ、楽しめる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室の畳の部屋、ベッドの部屋、洋室のベッドの部屋と3種類の部屋を入居者の希望に合わせて選択できる。家族との面談も個室で行いプライバシーが図られている。	フローリングと畳の居室があり、使い慣れた時計やアルバムを持ち込んでいる。布団で就寝している利用者が自由に布団干しも行う等、これまでの暮らしを継続する様子が窺える。職員は温湿度計による空調管理や毎日の清掃により清潔保持に努めている。全利用者に入居時電気毛布の持参を依頼しており、寒さへの対策を図っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者1人1人のニーズに合わせて、家族と本人、職員が一丸となってニーズを把握し、課題を明らかにして、楽しく生きがいのある毎日を送れるよう支援している。		